

地方創生拠点整備交付金 検証シート（令和２年度）

地域再生計画名称	碓氷海岸観光拠点化推進計画
----------	---------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績 (上段：目標値 下段：実績値)

概 要		重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績					目標達成率 (対R02実績)
						H28	H29	H30	R01	R02	
基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策 1 観光誘客による交流人口の拡大 1－2 大船渡ファン獲得プロジェクト	① 碓氷海岸レストハウス売り上げ増加額	単	千円	50,000	45,583	0	35,950	47,100	48,700	50,000	28.2
						0	32,170	30,471	32,345	14,080	
	② 碓氷海岸レストハウス来場者延べ人数	単	人	47,000	35,705	37,000	38,535	42,060	45,650	47,000	31.3
						0	33,702	30,191	35,463	14,700	
	③ 碓氷海岸レストハウス「浜の仕事体験」利用延べ人数	単	人	1,150	0	0	50	250	650	1,150	5.5
						0	0	31	652	63	
	④										
	⑤										
計画期間	平成 28 年度 ～ 令和 2 年度 (5ヵ年)										

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
平成29年度に碓氷海岸レストハウスのテラスや多機能トイレの改修、外装・内装等の模様替えを行うことで、三陸復興国立公園の景観に調和した外観にリニューアルしながら、安全で安心できる動線や休憩スペースを確保するとともに、浜の仕事体験室等の整備や碓氷海岸観光施設等連絡会議や大船渡市グリーンツーリズム推進協議会等と連携して民間事業者も含めた体験プログラムやイベント等の実施、市内事業者等の特産品や商品・食材等の提供を拡充することで、交流人口の拡大と地場産業の振興施策との一体的な事業として実施する。	平成29年度に碓氷レストハウスの改修、外装・内装等の模様替えが完了し、平成30年度からワカメの芯抜きやホタテの殻むき、ホヤの殻むき、サンマの塩焼き、新巻鮭づくり、イクラづくり、イカの塩辛づくり、アワビ試食、浜焼き、押し海草づくり、貝殻フレームづくり、柿むき、餅つき、ロープの結び方、ワカメしゃぶしゃぶ、碓氷海岸探索の体験メニュー（16種類）を提供するとともに、ワカメの芯抜き体験の際に、「ワカメ生産過程」や「ワカメの芯抜きの仕方」等をパネルで利用者に説明した。 平成30年度には、ローカルツアーデスクを毎週土曜日市内宿泊施設において開設し、観光客に手軽に体験できる体験メニュー等を周知することにより、浜の仕事体験利用者の増加を図った。 浜の仕事体験については、旅行会社への営業に取り組み、令和元年度は、バスツアーでの利用が大幅に増加し、利用者は前年度比2,100%の652人であった。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら誘客を図ったが、全国的な感染拡大の影響により、売り上げ、利用人数が大幅に減少した。	施設では、検温や消毒など新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行っているが、いまだに観光客の回復が見通せない状況である。 今後は、アフターコロナに向けて、効果的な情報発信により、碓氷海岸レストハウスの体験プログラムによる集客を進め、地区内の観光スポットや体験プログラム等との回遊を図るための事業者間の連携に取り組む必要がある。	C <理由> 新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら誘客に努めたものの、感染拡大の影響により、全ての指標において目標値を達成できなかった。 次年度以降のコロナ禍における情報発信等の取組を進める。
担当課	観光交流推進室	観光交流推進室	観光交流推進室

3 今後の対応

改修整備した碓氷海岸レストハウスを中心に碓氷海岸の観光拠点化を図るため、観光案内機能を有し体験観光を推進する碓氷海岸インフォメーションセンター等の近隣施設との連携により、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、誘客に取り組む。 また、浜の仕事体験工房の体験メニューの効果的な情報発信により、施設の利用促進を図る。
--

地方創生拠点整備交付金 検証シート（令和２年度）

地域再生計画名称	椿の里おおふなと拠点形成推進計画											
1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績												
(上段：目標値 下段：実績値)												
概 要		重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績					目標達成率 (対R02実績)	
						H28	H29	H30	R01	R02		
基本目標 1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする 施策 2 新産業の創出と起業・第二創業支援 2－2 新分野進出促進プロジェクト	①	大船渡市総合交流ターミナル施設物 販売上増加額	単	千円	7,422	5,937	5,996	6,531	6,828	7,125	7,422	50.3
							5,515	4,757	5,688	5,296	3,731	
							24,500	27,000	30,000	33,650	35,000	
							21,533	19,299	22,291	18,103	9,315	
基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策 1 観光誘客による交流人口の拡大 1－2 大船渡ファン獲得プロジェクト	②	大船渡市総合交流ターミナル施設来 館者延べ人数	単	人	35,000	23,694	0	500	1,958	4,043	6,755	26.6
							0	500	1,958	4,043	6,755	
							140	527	417	710	150	
	③	大船渡市総合交流ターミナル施設で の椿油搾油等体験者延べ人数	単	人	6,755	0	0	500	1,958	4,043	6,755	2.2
							0	500	1,958	4,043	6,755	
							140	527	417	710	150	
計画期間	平成 28 年度 ～ 令和 2 年度 (5カ年)	④										

計画内容		進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
大船渡市総合交流ターミナル施設の展示環境改善、ガラス温室及び椿油搾油機等を整備し、季節やイベントに合わせた植栽展示や搾油体験等で魅力を向上させながら、大船渡市農業協同組合、花き生産者、大船渡ツバキ協会、一般社団法人大船渡市観光物産協会等と連携した各種イベント等を企画・運営することで集客の通年化を図るとともに、民間事業者や団体と連携した椿油等を活用した商品開発等を行うことで、地場産業の振興施策と一体的な事業として実施する。		平成29年度に大船渡市総合交流ターミナル施設の展示環境改善、ガラス温室及び椿油搾油機等の整備を完了し、集客を図ったが、全ての重要業績評価指標で目標値を下回った（新型コロナウイルス感染症の拡大等の影響から、令和2年2月下旬以降は月ごとに対前年同月と比較すると来館者が大幅に減少している。）。 民間主導による椿の総合産業化に向けて、椿実の収穫を行い、令和元年度は600kgの収量となったが、2年度は163kgの収量であった。 民間事業者において収穫した椿実から搾油を行い、椿油を活用した製品（カキ、ホクテ、サンマ、アワビの燻製椿オイル漬け食品等）の試作が令和元年度から続けられている。 また、原料として大船渡産ヤブツバキ100%の油を使用した唇や爪に保湿効果のある化粧品を製品化し、令和2年度から小売販売を開始した。 椿関連商品の開発に当たり、6次産業化に向けた市補助金の活用等については、事業者に情報提供を行い、具現化に向けた支援を図っている。 三面椿や市内のヤブツバキの実から苗木（以下「市内産優良苗」）を試験的に育成する取組を実施した。 ◎ 令和2年度の主な事業実績 ○椿利活用推進事業（復興支援員制度を活用） ・椿利活用支援員1名配置 ・椿学習（市内の3小学校、1高校） ・椿の植樹活動（2箇所/82本）、市内産優良苗育成（456本） ・椿の実集め無人ボックス（4台）を市内スーパー内に設置及び市民向け協力依頼折込チラシ等の作成 ・椿の実集めの対面収集場所の開設（2か所） ・つばきまつりにおける搾油体験コーナーの出展（延べ3回） ○地域資源活用交流促進事業 ・明治大学の協力により令和元年度に作成した児童向け副読本「つばきノート」を市内小学校（7校、852冊）や関係者に配布した。 ・新たに、明治大学と大船渡東高校による椿の利活用をテーマにしたオンライン交流会の開催を支援した。 ・令和元年度に実施した明治大学、相模女子大学、資生堂の協力による産業まつりやつばきまつりにおけるそれぞれの活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度は実施に至らなかった。	平成29年度の大船渡市総合交流ターミナルの施設整備により、拡張したハウスでのバックヤード業務、苗木生産等により、既存の交流スペースでのイベント開催が容易になっている。引き続き、展示観光に留まらない体験型観光施設への移行を検討する必要がある。 椿実収穫については、引き続き収穫団体に働きかけを強めながら、新たな収穫団体の掘り起こしを図り、収量を増やしていく必要がある。 令和4年3月の全国椿サミット大船渡大会の開催にあわせ、市民の大会盛り上げ機運の醸成を図るとともに、広く情報を発信する必要がある。	C ＜理由＞ 重要業績評価指標は、新型コロナウイルスの拡大によると推測される来館者数の激減に連動して、全ての指標において、目標値を達成できなかった。 次年度以降、全国椿サミット大船渡大会等を通じた情報発信等の取組を進める。
担当課		農林課	農林課	農林課

3 今後の対応											
椿の里づくり行動指針に基づき、官民が情報共有を図り、また連携して事業を展開し、椿油搾油所等を中心として、入口となる植樹・椿実収穫、出口となる椿関連商品の開発・販売を一連の流れとして総合産業化を図るため、椿振興官民懇談会（事務局：市産業戦略室）に継続的かつ積極的に参画する。 世界の椿館・基石については、展示観光に留まらない取組みとして、苗木生産に試験的に取り組み、民間主導事業として自走化を検討する。 椿関連商品開発については、各種支援制度を活用し、6次産業化として搾実油、木の灰（陶芸向け等）、葉（お茶、殺菌効果に着目）を原料とする開発を支援する。 全国椿サミット大船渡大会の開催に合わせ、大船渡ファンの拡大に資するため、市内外に椿の里おおふなとのPRを実施する。 表頭の2つの基本目標の施策貢献度を高めるためには、上記の対応を進めるとともに、市の花でもあるつばきの多様な魅力をさらに市内外に発信し、認知度を高める方策の検討を図る。また、全国椿サミット大船渡大会を一過性のイベントに終わらせない工夫を図る。											

地方創生拠点整備交付金 検証シート（令和２年度）

地域再生計画名称	スポーツ交流拠点形成推進計画
----------	----------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績 (上段：目標値 下段：実績値)

概 要		重要業績評価指標		単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績					目標達成率 (対R02実績)
							H29	H30	R01	R02	R03	
基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策 1 観光誘客による交流人口の拡大 1－1 スローシティ大船渡プロモーションプロジェクト		① 赤崎グラウンド利用収入増加額	単	千円	1,200	121	450	800	1,000	1,100	1,200	113.5
							134	1,096	1,504	1,248		
基本目標 4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる 施策 3 持続可能な都市環境づくりの推進 3－2 公共施設適正配置とリノベーション推進プロジェクト		② 赤崎グラウンド利用者延べ人数	単	人	42,000	16,200	7,700	30,000	35,000	38,500	42,000	51.8
							5,673	16,493	16,743	19,925		
		③ 赤崎グラウンドでの競技会等の利用に伴う宿泊者延べ人数	単	人	2,600	0	720	1,500	2,000	2,300	2,600	8.2
							110	683	391	189		
		④										
		⑤										
計画期間	平成 29 年度 ～ 令和 3 年度 (5ヵ年)											

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
本事業は、平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備やクラブハウス及び観客席等を整備し、競技グラウンドとしての魅力を向上させながら、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会、Jリーガーの有志で組織する「東北人魂」等と競技会やイベント等を企画・運営することにより、スポーツ合宿等を誘致して市内外からの利用者の増大を図るとともに、一般社団法人大船渡市観光物産協会と連携して、市外からの利用者向けに地元体験プログラムや民宿等の紹介、誘客活動を展開することで、交流人口の拡大と観光関連産業の振興施策との一体的な事業を実施する。	平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備及びクラブハウスの新設や附帯設備等の整備が完了したものの、利用者数、宿泊者延べ人数は目標値に届かなかったが、開設以降、サッカーを中心に利用者は増加し、ジュニアを対象としたサッカー大会が開催されている。 また、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会、Jリーガーの有志で組織する「東北人魂」等と連携した合宿やトレーニンググマッチ等での誘客を図るとともに、岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合大船渡支部等と大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を設立した。 平成31年1月に大船渡市スポーツ合宿支援補助金を制定後、アンケートで赤崎グラウンドの利用に前向きな県内の高校サッカー部を訪問し、制度の説明を行い各校の合宿状況を伺った。 降雪の少ない1月開催のジュニアサッカーの交流大会は定着し、平成30年度からは同じく1月に高校年代の交流大会も開催されるようになった。 令和2年度は、市スポーツ合宿支援補助金を活用した3件のうち、2団体が赤崎グラウンドを利用した。また、補助金の対象とはならなかったものの関東圏からも1団体が合宿として赤崎グラウンドを利用しており、スポーツ交流拠点として着実に浸透している。 一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により大会・イベント中止が相次いだため、それらへの参加に伴う市外からの宿泊者は減少した。	年間を通じて広くスポーツを楽しめる拠点として市民をはじめとする利用者の増加を図りながら、一般財団法人大船渡市体育協会、大船渡市サッカー協会、東北人魂等のスポーツ関係者と宿泊関係者が連携し、宿泊者数の増加に向けた継続的な取組が必要である。 大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を活用し、いわてスポーツコミッション事業（スポーツイベント等の誘致・開催、スポーツ合宿等の誘致・支援等）との一層の連携を図る。	B <理由> 重要業績評価指標の利用収入増加額が目標値を達成しているものの、利用者数、宿泊者延べ人数が目標値を達成できなかった。 一定の成果が表れており次年度以降の活動により効果が期待できる。
担当課	生涯学習課	生涯学習課	生涯学習課

3 今後の対応

赤崎グラウンドの利用に伴う宿泊者数を増やすため、社会人等によるサッカー教室の開催を検討する。 大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を活用し、宿泊者の増加を図る。 宿泊者の増加につながるよう大船渡市スポーツ合宿支援補助金要綱の交付要件の緩和（市内宿泊を定住自立圏に拡大）等を検討する。
